

(案)

印  
紙

## 造林事業請負契約書

- 1 事業名 松くい虫防除事業（特別防除・地上散布）請負
- 2 事業内容 特別防除：別冊 事業実施計画書（1号-A）第1項のとおり  
地上散布：別冊 事業実施計画書（1号-B）第1項のとおり
- 3 履行場所 佐賀県唐津市 浜崎虹ノ松原国有林 125ろ林小班外  
別冊 図面のとおり
- 4 契約面積 別紙 作業内訳書のとおり
- 5 事業期間 令和〇〇年〇〇月〇〇日から  
令和8年7月31日まで  
（うち佐賀森林管理署長が指定する期日 ※ただし雨天の場合は変更あり）
- 6 散布薬剤名及び数量 別紙 作業内訳書のとおり
- 7 作業仕様 別冊 作業仕様書のとおり
- 8 請負金額 金 〇〇, 〇〇〇, 〇〇〇 円  
（うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 金 〇, 〇〇〇, 〇〇〇 円）
- 9 選択条項  
別冊約款中選択される条項は次のとおりである。  
（選択されるものは○印、削除されるものは×印）

適用削除の区分	選 択 条 項	
×	契約保証金の納付	第4条第1項第1号
×	契約保証金の納付に代わる担保となる有価証券等の提供	第4条第1項第2号
×	銀行、甲が確実と認める金融機関等の保証	第4条第1項第3号
×	公共工事履行保証証券による保証	第4条第1項第4号
×	履行保証保険契約の締結	第4条第1項第5号
×	支給材料及び貸与品	第15条
×	前金払 請負金額の /10以内とする	第35条第1項
×	中間前金払 請負金額の /10以内とする	第35条第3項
×	部分払（作業期間中 月1回以内とする）	第38条
×	国庫債務負担行為に係る契約の特則	第40条

（注）国庫債務負担行為に係る契約にあつては、別紙を添付する。

10 支給材料及び貸与物件

品名	品質規格	数量	引渡予定場所	引渡予定年月日

11 特約事項等 なし

上記の事業について、発注者 分任支出負担行為担当官 佐賀森林管理署長 吉岡 哲也と請負者〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇は、各々の対等な立場における合意に基づいて、本契約書及び九州森林管理局長の定める国有林野事業造林事業請負契約約款及び造林事業請負標準仕様書によって公正な請負契約を締結し、信義に従って誠実にこれを履行するものとする。

また、請負者が共同事業体を結成している場合には、請負者は、別紙、共同事業体協定書により契約書記載の事業を共同連帯して請け負う。

本契約の証として本書2通を作成し、当事者記名押印の上、各自1通を所有する。

令和 8 年 4 月 日

発注者 住所 佐賀県佐賀市成章町2番11号  
(甲)  
分任支出負担行為担当官  
佐賀森林管理署長 吉岡 哲也 印

請負者 住所 〇〇県〇〇市〇〇  
(乙)  
〇〇〇〇〇〇〇〇  
〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇 印

【注】請負者が共同事業体を結成している場合においては、請負者の住所及び氏名の欄に、共同事業体の代表者及びその構成員住所及び氏名を記入する。

請負者 〇〇共同事業体

代表者 〇〇株式会社  
住所 〇〇県〇〇〇〇〇〇〇 〇番〇号  
代表取締役 〇〇〇〇〇 印  
住所 〇〇県〇〇〇〇〇〇〇 〇番〇号  
代表取締役 〇〇〇〇〇 印  
住所 〇〇県〇〇〇〇〇〇〇 〇番〇号  
代表取締役 〇〇〇〇〇 印



## 特約事項（保護事業）

農林水産省では、専門家による検討等を重ね、今般、野生いのししにおけるアフリカ豚熱（以下「ASF」という）の感染確認時の具体的対応が取りまとめられ、都道府県へ通知されたところ。

ASFは、ASFウイルスが豚やいのししに感染することによる発熱や全身の出血性病変を特徴とする致死率の高い伝染病であり、ダニによる媒介、感染畜等との直接的な接触により感染が拡大し、有効なワクチンや治療法はなく、発生した場合の畜産業界への影響が甚大であることから、我が国の家畜伝染病予防法において「家畜伝染病」に指定され、患畜・疑似患畜の速やかな届出とと殺が義務付けられている。

このことから、請負者は下記の内容について遵守すること。

### 記

#### 1. 平時における対応について

山林での作業用の靴の履き分けや、下山時や帰宅時の靴及びタイヤの土落とし等、平時における感染防止対策に協力するとともに、野生いのししの死体発見時には管轄の自治体に速やかに通報し、当該森林管理署へ連絡すること。

#### 2. 感染の疑いが生じた場合の対応

ASF対策として、野生いのししの感染が確認された場合の都道府県が実施する防疫措置に基づき、消毒ポイントにおける消毒の実施や帰宅後の靴底の洗浄消毒等に協力すること。

また、都道府県の行う立入制限等の防疫措置等を踏まえ、事業を一時中止する可能性があること。

なお、一時中止となった場合は、国有林野事業造林事業請負契約約款第20条により対応する。

## 特記仕様書

### 安全確保に資する衛星携帯電話の利用について

1. 本事業は、安全確保に資する衛星携帯電話の利用に当たって共通仮設費等へ計上することができる。
2. 請負者は、あらかじめ事業現場の通話状況を確認した上で、利用する衛星携帯電話を準備しなければならない。
3. 請負者は、事業計画書提出後に準備した衛星携帯電話で試験通話を行い、事業現場において現場代理人が所有している携帯電話が通話不可及び衛星携帯電話が正常に通話できるか監督職員の確認を受けなければならない。請負者は、監督職員が通話に支障ありと判断した場合は、発注者と請負者で協議し、衛星携帯電話の変更又は利用を中止するものとする。
4. 請負者は、衛星携帯電話の利用に当たって、次の事項を事業計画書に記載し、監督職員の確認を受けるものとする。なお、事業計画書提出時に利用予定がない場合においても、後日利用を希望する際は、同様に取り扱うものとする。
  - ①衛星携帯電話事業者名
  - ②衛星携帯電話サービス名
  - ③衛星携帯電話及びこれに関連する機器類（以下「使用端末等」という。）
  - ④利用料金
  - ⑤利用期間（〇月〇日～〇月〇日まで）
  - ⑥本事業以外の事業への供用の有無  
他事業名（署名・物件名）
5. 対象とする経費は、1台分のリース代金を原則とする。ただし、リース不可の場合は、衛星携帯電話の購入代金を基に損料を算出し、発注者と請負者で協議するものとする。
6. 請負者は、事業着手日から事業終了日における衛星携帯電話に関する費用の支払証明書類等を提出するものとする。なお、事業終了日については、事業終了の見込み日を協議し、別途定めたみなし日とすることも可能とする。
7. 対象経費の計上に伴う請負金額の変更は、最終変更契約において行うものとする。
8. 衛星携帯電話を、本事業以外の事業地で共用することは妨げない。ただし、同一期間に係るリース料金等を本事業以外の請負契約の経費として計上することはできないものとする。また、事業途中で本事業以外でも当試行による衛星携帯電話を供用することとなった場合には監督職員に申し出ること。

## 特記仕様書

### 熱中症対策に資する現場管理費率等の補正の試行について

1 本事業は、日最高気温又は暑さ指数の状況に応じた熱中症対策に資する現場管理費率等の補正の試行を行う対象事業である。

2 用語の具体的な内容は、次のとおりである。

(1) 真夏日

日最高気温が 30 度以上の日（気象庁が公表している地上気象観測所等の気温）又は暑さ指数（WBGT 値）が 25 度以上の日（環境省が公表している観測地点の暑さ指数）。

(2) 事業期間

事業着手日から事業終了日までの期間をいう。なお、年末年始休暇分として 6 日間、7 月、8 月又は 9 月を含む事業では夏季休暇分として 3 日間、事業中止期間は含まない（事業期間には不稼働日も含む）。

(3) 真夏日率

事業期間内の真夏日を事業期間で除した割合をいう。なお、不稼働日は事業期間内の真夏日に含めないものとする。

$$\text{真夏日率} = \text{事業期間中の真夏日} \div \text{事業期間}$$

3 請負者は、契約締結後に提出する事業計画書に、事業期間中における気温の計測方法及び計測結果の報告方法を記載し、監督職員へ提出する。

なお、当試行に取り組まない場合は、事業計画書への記載は不要である。

4 気温の計測方法については、事業現場から最寄りの気象庁の地上気象観測所の気温又は環境省が公表している観測地点の暑さ指数（WBGT 値）を用いることを標準とする。

ただし、これによりがたい場合は、あらかじめ監督職員と協議の上、気象業務法施行規則（昭和 27 年運輸省令第 101 号）第 1 条の 3 の表に基づく気象庁以外の者の行う観測の技術上の基準を満たした方法により得られた事業現場の気温の計測結果又は JISB7922 に準拠した電子式湿球黒球温度指数計（精度区分クラス 2 以上）により測定した値を用いることも可とする。

なお、計測資料の取得又は計測に要する費用は請負者の負担とするものとする。

5 請負者は、監督職員へ計測結果の資料を提出する。

6 発注者は、請負者から提出された計測結果の資料を基に補正値を算出し、現場管理費率等に加算し請負金額の変更を行うものとする。

$$\text{補正値 (\%)} = \text{真夏日率} \times \text{補正係数}^{\ast} \quad \ast \text{補正係数は 1.2 とする。}$$

## 事業実施計画書(1-A)

- |                |   |
|----------------|---|
| 1 事業名          | 松くい虫防除事業(特別防除・地上散布)請負<br>(空中散布における薬剤の購入、調査、航空機への薬剤積込み作業外)<br>①薬剤の購入<br>②薬剤の調査<br>③薬剤の積込み作業<br>④薬剤散布中の交通整理 7箇所(警備員)<br>⑤標識の設置及び撤収作業(別添 図面参照)<br>・使用機種として、高所作業車(バケット作業床最大地上高12m級)を使用し標識設置を行い、上空から判読可能な箇所に設置すること。<br>高所作業車の使用が不可能な箇所は、甲と協議しながら可能な限り判別可能な箇所へ設置すること。<br>⑥テントの設置及び撤収作業(ヘリポートに1張)<br>⑦交通規制看板の設置及び撤収<br>⑧空中散布後終了後の水質検査<br>⑨危被害対策 ・マルチかけ(車両)<br>・ロープかけ(駐車場への侵入対策)<br>・地元区長の雇用 4人(駐在員)<br>・漁船の借り上げ及び漁協組合員の雇用 4人 |
| 2 散布薬剤<br>及び数量 | エコワン3フロアブル<br>585.76リットル(原液)  |
| 3 散布箇所         | 佐賀県唐津市 浜崎虹ノ松原国有林 125ろ林小班外(別添 図面参照)  |
| 4 作業箇所         | 唐津市 松浦川河川敷(別添 図面参照)   |
| 5 散布面積         | 146.44ha  |
| 6 希釈倍数         | 7.5倍  |
| 7 調査・積込総量      | 4,393.2リットル   |
| 8 散布回数         | 1回散布  |
| 9 散布期日         | 令和8年〇月〇日～令和8年7月31日のうち佐賀森林管理署長が指定する期日<br>(ただし、雨天等の天候不適の場合は順延)  |
| 10 その他         | ①「松くい虫防除(薬剤調査・積込)作業仕様書」のとおり<br>② 使用済薬剤容器は責任を持って収去すること。<br>③ 住宅地等における農薬使用については、必要な資格、又は研修を受けたものが責任者として従事すること。<br>④ 標識の設置及び撤収作業において、高所作業車(バケット作業床最大地上高12m級)を使用すること。   |

## 事業内容の詳細

### ○ 薬剤散布中の交通整理(7箇所)

- ・空散散布時間 5:00~7:00
- ・配置箇所 別紙図面の通り
- ・その他 現地職員の指示に従って下さい

### ○ 危被害対策(マルチ掛け・ロープ張り)

- ・駐車場の全車両にマルチ掛けを行う。
- ・最後に駐車場へ入れないようにロープを張る
- ・空散終了後にマルチとロープを回収

#### 実施箇所

虹ノ松原森林浴の森公園駐車場(海岸側)	ロープ張り2箇所
唐津バーガーがある駐車場	全延長にロープ張り
忠霊碑の駐車場	ロープ張り1箇所
虹ノ松原西口(唐津ロイヤルホテル横)の駐車	ロープ張り2箇所
虹ノ松原駅駐車場	ロープ張りなし
松籟病院裏の庭池	シートにより被覆

### ○ 交通規制看板の設置及び撤収

- ・県道から南側に入る道路の入り口(交差点)に看板を立てる。
- ・5時~5時10分までの間に立てる
- ・空散終了後にマルチとロープを回収

#### 設置箇所

麻生商店と脇山商店の間の入り口
保育所前の鏡山入り口
砂子踏切の入り口
虹ノ松原東口

### ○ 散布予定日の2日前(確認飛行前日)までに赤白旗により散布区域の表示及び空散完了後撤収 (別紙 散布区域表示位置図のとおり)

### ○ 散布予定日前日までにヘリポートにテントを一張及びテーブル、椅子を設置、空散完了後撤収

### ○ 水質検査 (別紙 水質検査 仕様書による)

## 仕様書(15の1)

### 松くい虫防除(薬剤調合・積込)作業仕様書

1. 作業実施に当たっては、契約書及び本作業仕様書によるほか、災害防止、作業実施上、必要な事項について、作業着手前に監督職員の指示を受けること。  
また、作業中においても必要な事項については、監督職員の指示によること。
2. ヘリポート内での作業は、危険を伴うことから人員の配置には十分配慮し、薬剤積込作業時などヘリに近づくときは、整備士等の指示に従って行うこと。
3. 調合・積込の薬剤の種類、数量、希釈倍数、散布総量、1回当り積載量、ヘリ機種名は、別紙「事業実施計画書」のとおりとする。
  - (1) 薬剤などの数量は、監督職員の検認を調合前と調合後に受けること。
  - (2) 1回当たりの積載量は平均であることからパイロット、整備士と事前に打ち合わせを行い調整すること。
  - (3) 薬剤を希釈する水は、清水を使用すること。
4. 薬剤の保管、取扱い及び危被害防止については、以下に留意すること。
  - (1) 毒物、劇物に指定された薬剤については、毒物、劇物取締法の規定を遵守すること。
  - (2) 薬剤に記載される注意書きは遵守することとし、他の薬剤と混合しないこと。
  - (3) 薬剤は、密閉して火気のない倉庫等に厳重に保管すること。  
ただし、散布の前日または当日に支給される場合は、この限りではない。
  - (4) 薬剤を取扱う作業員、積込従事者等は、皮膚の露出部を少なくするとともに、防汚衣及び保護具等を着用すること。
  - (5) 皮膚に薬剤が付着したとき及び作業終了後は、顔、手足等の露出部を石けんでよく洗うとともにうがいをすること。
  - (6) 作業終了後は、防汚衣及び保護具等も含めて、よく洗浄等を行うこと。
  - (7) 薬剤の運搬に当たっては、紛失を防止するため、積卸しの都度数量の確認をすること。また、運搬中の薬剤のこぼれ防止に万全を期すこと。
  - (8) 薬剤の運搬は、当日散布可能な数量のみとし、残量が生じたとしても林内に放置することなく所定の場所へ保管すること。
  - (9) 薬剤の希釈、積込中に河川、用水路等に流入しないよう注意すること。
  - (10) 薬剤に希釈、積込に使用した器具等は、作業終了の都度水洗いすること。  
この場合の水洗い場所は、河川、用水路等では行わないこと。
  - (11) 使用済みの薬剤の容器は、林内に放置、または、河川等被害を及ぼす恐れのある場所等に投棄することなく、当日の使用量を確認して保管し、監督職員の検認を受けてから処分すること。
5. 積込作業については、以下に留意すること。
  - (1) 積込作業は、整備士及び責任者の合図・指示を持って行うこととし、ヘリが完全に着地するまで、みだりに行動しないこと。
  - (2) ヘリのエンジン停止後は、メインローターの先端が下がり危険であることから不用意に回転翼の旋回内に近づかないこと。
  - (3) テールローター(尾部翼)は、人の高さで高速回転していること及びパイロットから死角となっているので絶対に近づかないこと。

6. 水質検査については、別紙「水質検査 仕様書」のとおり実施すること。
7. 作業実施のための諸施設及び労務者の管理等については、労働関係法令を遵守すること。
8. 作業地の火災防止に万全の措置を行い、不注意により失火しないよう注意すること。
9. 作業が終了したときは、監督職員の指示に従い、作業現場の片づけを行うこと。
10. 仕様書等に明記しない作業で、本作業の実施に必要な諸作業は、乙の負担において行うこと。
11. その他必要な事項については、監督職員の指示に従うこと。

(別紙)

## 水質検査 仕様書

### 1. 業者の選定

水質検査は佐賀森林管理署が認定した資格を持つ業者に検査を依頼すること。

### 2. 業務内容

#### (1) 採水業務

虹ノ松原国有林～クルマエビ養殖場周辺5地点(St1.2.3.4.5)での採水  
(別紙水質検査箇所位置図のとおり)

#### (2) 分析業務

採水した検体中のチアクロプリド濃度を分析する。

### 3. 業務実施要領

- ① 散布前の採水業務は、散布前日に行う。
- ② 散布当日の採水業務は、散布終了後3時間を経過して行う。
- ③ 散布終了翌日からの採水時間は、散布当日に採水した時間とほぼ同じ時間とする。
- ④ 海水の採水に関しては、佐賀玄海漁協に協力依頼をしている。
- ⑤ 採水時写真、採水場所の近遠写真を撮る。
- ⑥ 検体の採取量及び分析方法については佐賀森林管理署と協議し決定する。
- ⑦ 分析結果については検査結果を取りまとめて佐賀森林管理署へ提出すること。  
(濃度分析結果について、その日の内に佐賀森林管理署へ報告すること。)
- ⑧ 採水するものはヘリポート、散布区域に近づかないこと。

### 4. その他

この仕様書に定めないものについては、その都度佐賀森林管理署と協議するものとする。

# 虹の松原内交通規制概要及び要員配置図

- : 通行止め区間
- : 迂回路
- ① ~ ⑬ : 当日要員配置箇所
- ( ● 警備員配置    ● 駐在員配置 )
- ( ● 漁協組合員配置 )
- : 看板配置箇所    ● : 駐車場
- : ヘリポート(作業箇所)



**ヘリポート  
(薬剤積込箇所)**

**国道202号線**



# 特別防除(空中散布) 散布区域表示位置図



# 水質調査箇所位置図



空中散布における調査箇所

採取日 箇所	散布前日	散布当日	1日後	2日後	3日後	検体数
St. 1		○	○	○	○	4
St. 2		○	○	○	○	4
St. 3		○				1
St. 4	○	○	○	○	○	5
St. 5 (井戸水)	○	○	○	○	○	5
計	2	5	4	4	4	19

調査計 19検体

## 事業実施計画書(1号-B)

- 1 事業名 松くい虫防除事業(特別防除・地上散布)請負  
①指定薬剤の購入  
②薬剤の調合  
③薬剤の散布作業(作業路整備・交通整理等の付帯作業含む)  
④住民周知(作業前日・当日の街宣車等による周知)
- 2 散布面積 65.55ha(1haあたり1,200リットル)
- 3 購入薬剤の  
特質、数量等 ①農林水産省農薬登録済であること  
②農薬の種類:ネオニコチノイド系農薬  
③人畜毒性:普通物・A類

なお、使用する薬剤・希釈倍数・薬剤数量は次のとおりとする。

購入薬剤	マツグリーン液剤2	エコワン3フロアブル	モリエートMC
希釈倍数	80倍	160倍	160倍
薬剤数量	983.25リットル	491.63リットル	491.63リットル

- 4 適用場所 林地
- 5 適用木名 マツ生立木
- 6 適用害虫名 マツノマダラカミキリ(成虫)
- 7 使用方法 動力噴霧器での地上散布。
- 8 散布箇所 佐賀県唐津市 浜崎虹ノ松原国有林 125ろ林小班外(別添 図面参照)
- 9 散布回数 1回散布
- 10 散布期日 令和8年〇月〇日～令和8年7月31日のうち佐賀森林管理署長が指定する期日  
(ただし、雨天等天候不適の場合は順延)
- 11 その他 ①「松くい虫防除(地上散布)作業仕様書」のとおり  
② 使用薬剤容器は責任を持って収去すること。  
③ 通知(住宅地等における農薬使用について)に規定した資格、又は研修を受けたものが責任者として従事すること。

## 仕様書(15の2)

### 松くい虫防除(地上散布)作業仕様書

1. 作業実施に当たっては、契約書及び本作業仕様書によるほか、災害防止、作業実施上、必要な事項について、作業着手前に監督職員の指示を受けること。  
また、作業中においても必要な事項については監督職員の指示によること。
2. 被害等があった場合は、速やかに監督職員へ報告して指示を受けること。
3. 調査、積込の薬剤の種類、面積、数量、希釈倍数、ha当り散布量、散布総量、散布回数は、別紙「事業実施計画書」のとおりとする。
  - (1) 薬剤などの数量は、散布区域毎に監督職員の検認を調査前と調査後に受けること。
  - (2) 薬剤を希釈する水は、清水を使用すること。
4. 薬剤の保管、取扱い及び危被害防止については、以下に留意すること。
  - (1) 毒物、劇物に指定された薬剤については、毒物、劇物取締法の規定を遵守すること。
  - (2) 薬剤に記載される注意書きは遵守することとし、他の薬剤と混合しないこと。
  - (3) 薬剤は、密閉して火気のない倉庫等に厳重に保管すること。  
ただし、散布の前日または当日に支給される場合は、この限りではない。
  - (4) 薬剤を取扱う作業員、積込従事者等は、皮膚の露出部を少なくするとともに、防汚衣及び保護具等を着用すること。
  - (5) 皮膚に薬剤が付着したとき及び作業終了後は、顔、手足等の露出部を石けんでよく洗うとともにうがいをする。
  - (6) 作業終了後は、防汚衣及び保護具等も含めて、よく洗浄等を行うこと。
  - (7) 薬剤の運搬に当たっては、紛失を防止するため、積卸しの都度数量の確認をすること。また、運搬中に薬剤のこぼれ防止に万全を期すこと。
  - (8) 薬剤の運搬は、当日散布可能な数量のみとし、残量が生じたとしても林内に放置することなく所定の場所へ保管すること。
  - (9) 薬剤の希釈、積込中に河川、用水路等に流入しないよう注意すること。
  - (10) 人家、桑畑等の危被害対象物の付近で散布するときは、薬剤の飛散状況を常にチェックし、第三者に損害を及ぼさないよう十分注意するとともに、人や家畜類等近寄らせないように注意すること。
  - (11) 薬剤に希釈、積込に使用した器具等は、作業終了の都度水洗いすること。この場合の水洗い場所は、河川、用水路等では行わないこと。
  - (12) 使用済みの薬剤の容器は、林内に放置、または、河川等被害を及ぼす恐れのある場所等に投棄することなく、当日の使用量を確認して保管し、監督職員の検認を受けてから処分すること。
5. 薬剤の散布に当たっては、以下に留意すること。

- (1) 散布日時は、監督職員へ事前に連絡し立会を求めること。
- (2) 散布用器具は、動力噴霧器を使用する。この場合、樹冠上方まで散布液が上がるように馬力の強い動力噴霧器を使用すること。
- (3) 散布は、晴天または曇天の日を選んで実施すること。ただし、降雨直後、散布直後に降雨が予想される場合、強風の場合は散布しないこと。
- (4) 松の樹冠部の枝条に対してまきむらとならないようにし、薬剤がしたたるように十分に散布すること。この場合に当年生枝、2年生枝に対して重点的に行うこと。
- (5) 高層木での散布で薬剤が樹冠上方まで届かない場合には、ノズルを長い竿につけるか、若しくは適宜足場等を用い、高い枝についても上方から薬剤がムラなくかかるように散布すること。
- (6) 散布に当たっては、予め一定本数に対する基準薬液量を散布し、目安を付けてから作業に着手すること。
- (7) 散布時は、常に風の方向、風力等を念頭に置いて危被害対象物や作業者に薬剤がかからないように留意すること。

6. 作業の実施については、事業記録(日誌、記録写真等)を作成し、当日の実行面積、使用薬剂量等を記載して必要により監督職員に提示すること。

7. 作業実施のための諸施設及び労務者の管理等については、労働関係法令を遵守すること。

8. 作業地の火災防止に万全の措置を行い、不注意により失火しないよう注意すること。

9. 作業が終了したときは、監督職員の指示に従い、作業現場の片づけを行うこと。

10. 仕様書等に明記しない作業で、本作業の実施に必要な諸作業は、乙の負担において行うこと。

11. その他

(1) 作業実施上で立木を伐採する必要がある時、また、立木に損傷を与えた時は速やかに監督職員へ届け出て指示を受けること。

(2) その他必要な事項については、監督職員の指示に従うこと。



# 地上散布 事業実施箇所区域図

